

「食生活に関する世論調査」の概要

令和3年1月
内閣府政府広報室

- 調査対象 全国18歳以上の日本国籍を有する者 3,000人
有効回収数1,967人（回収率65.6%）
- 調査期間 令和2年9月17日～11月1日
- 調査方法 郵送法
- 調査目的 食生活に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目
- 1 食品ロスについて
 - 2 食育について
 - 3 米の消費について
- その他
- 1 図表の数値(%)は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、内訳の合計が100にならないこともある。
 - 2 新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、調査員と調査対象の方との接触を回避するため、郵送法で実施した。

1 食品ロスについて

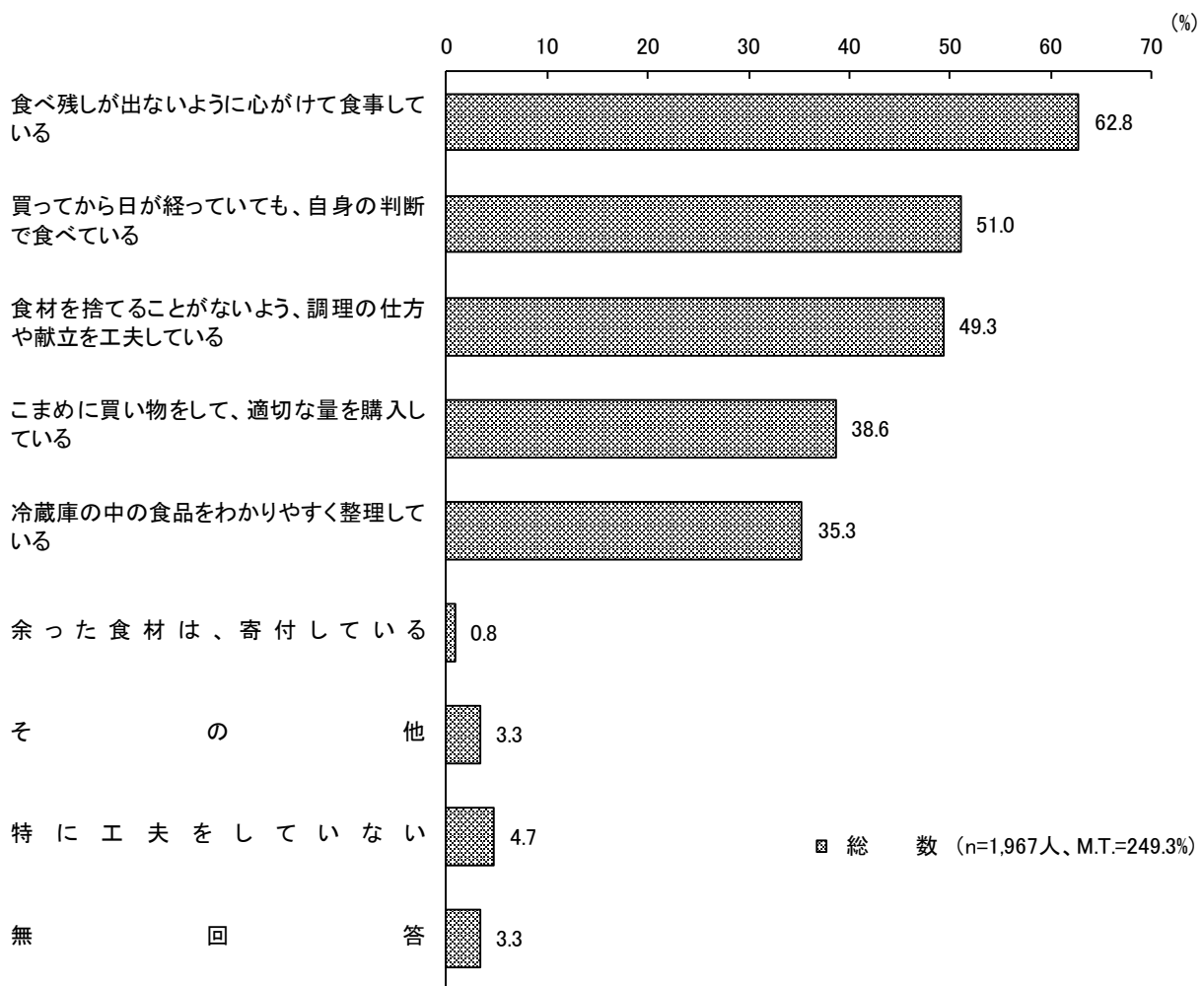
(1) 家庭における食品ロス削減の工夫

問1 あなたは、家庭で食品ロスが発生させないように、どのような工夫をしていますか。(〇はいくつでも)

(上位3項目)
令和2年9月

- ・ 食べ残しが出ないように心がけて食事している 62.8%
- ・ 買ってから日が経っていても、自身の判断で食べている 51.0%
- ・ 食材を捨てることがないよう、調理の仕方や献立を工夫している 49.3%

(複数回答)

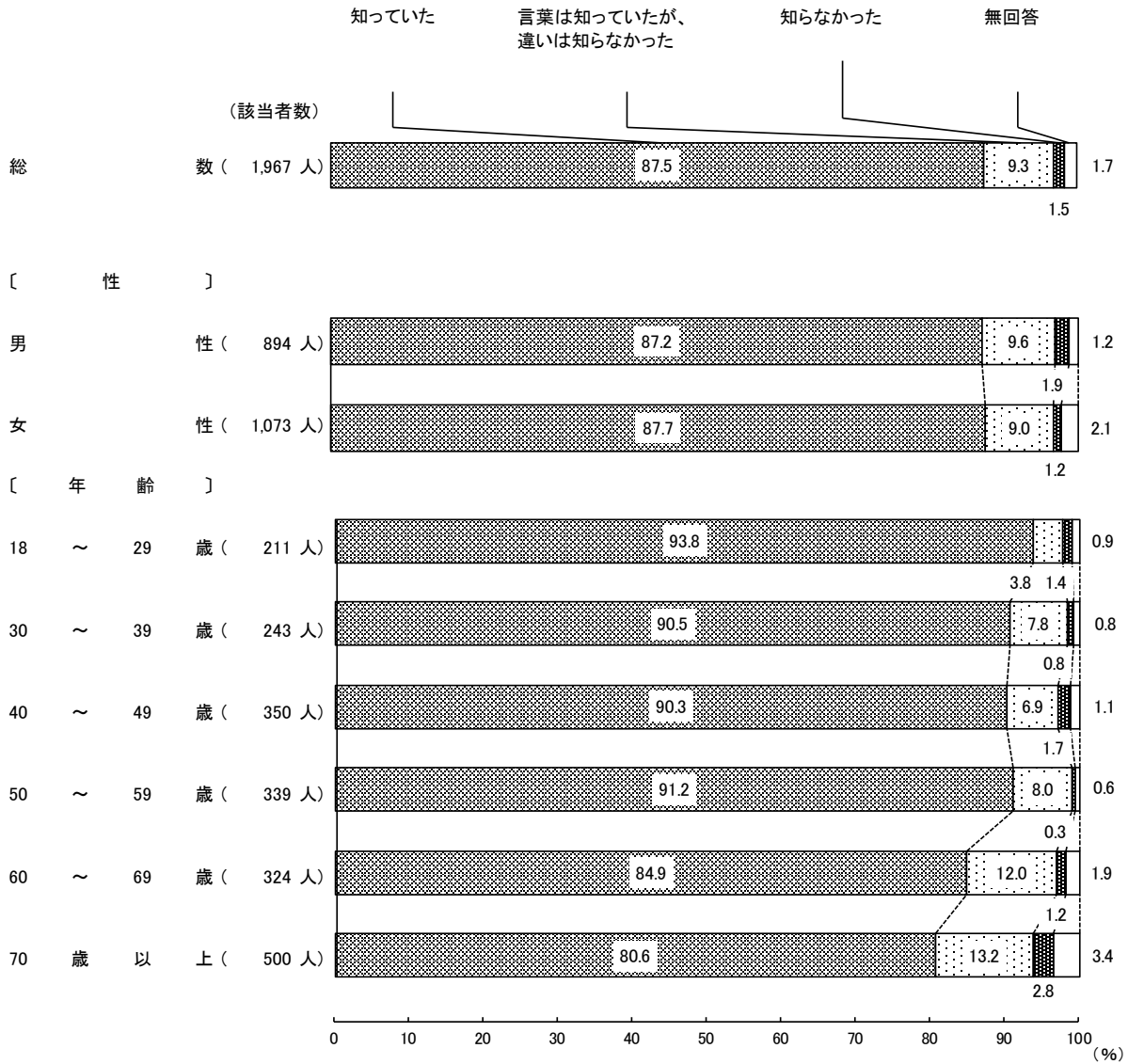


(2) 賞味期限と消費期限の違いの認知度

問2 賞味期限とはおいしく食べることができる期限、消費期限とは食べても安全な期限です。あなたは、賞味期限と消費期限の意味の違いを知っていましたか。(〇は1つ)

令和2年9月

- ・知っていた 87.5%
- ・言葉を知っていたが、違いは知らなかった 9.3%
- ・知らなかった 1.5%



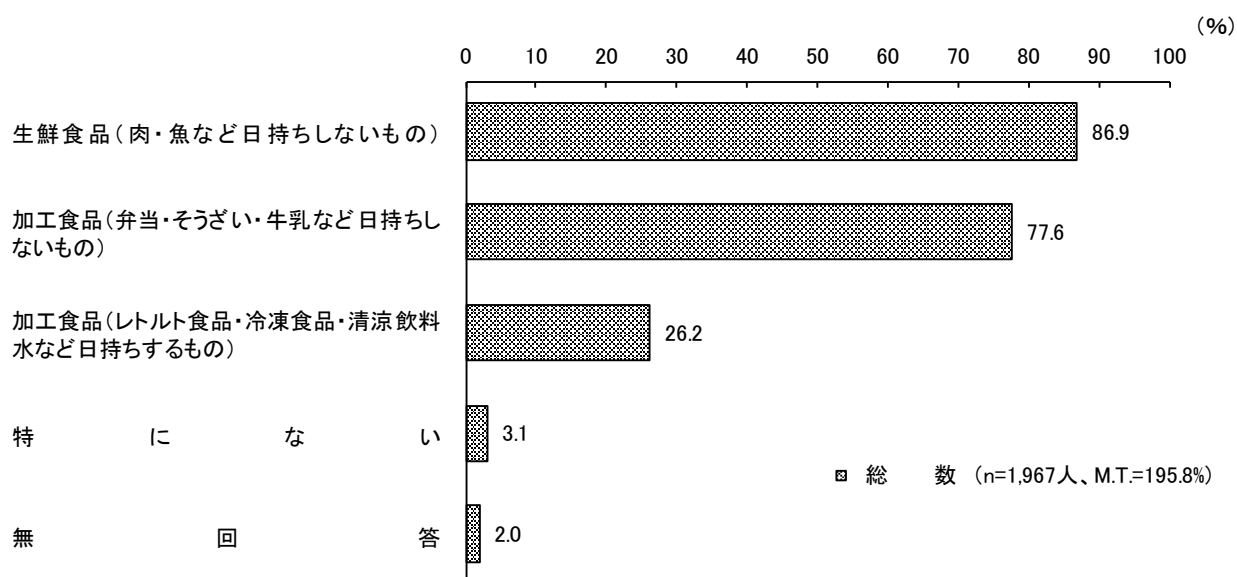
(3) 賞味期限や消費期限を意識している食品

問3 あなたが、日常の買い物で賞味期限や消費期限を意識している食品とはどのようなものですか。(〇はいくつでも)

令和2年9月

- ・生鮮食品（肉・魚など日持ちしないもの） 86.9%
- ・加工食品（弁当・そうざい・牛乳など日持ちしないもの） 77.6%
- ・加工食品（レトルト食品・冷凍食品・清涼飲料水など日持ちするもの） 26.2%

(複数回答)



ア 賞味期限や消費期限を意識している食品の購入

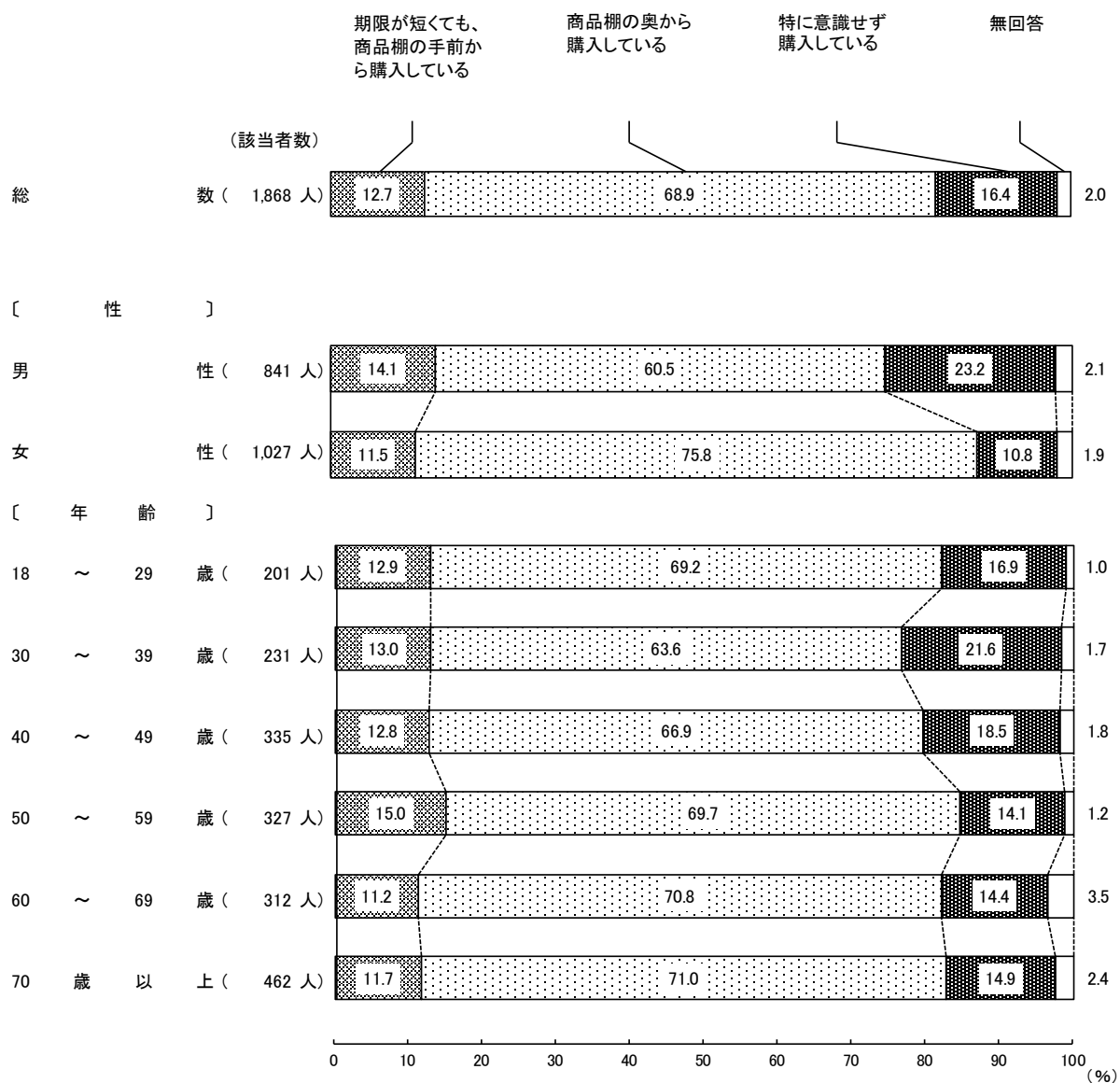
(問3で「生鮮食品(肉・魚など日持ちしないもの)」、「加工食品(弁当・そうざい・牛乳など日持ちしないもの)」、「加工食品(レトルト食品・冷凍食品・清涼飲料水など日持ちするもの)」と挙げた方(1,868人)に)

問4 賞味期限や消費期限を意識している食品を小売店でどのように購入していますか。(〇は1つ)

令和2年9月

- ・期限が短くても、商品棚の手前から購入している 12.7%
- ・商品棚の奥から購入している 68.9%
- ・特に意識せず購入している 16.4%

(賞味期限や消費期限を意識している食品に「生鮮食品(肉・魚など日持ちしないもの)」、「加工食品(弁当・そうざい・牛乳など日持ちしないもの)」、「加工食品(レトルト食品・冷凍食品・清涼飲料水など日持ちするもの)」を挙げた者に)



(4) 賞味期限や消費期限が近い食品の購入

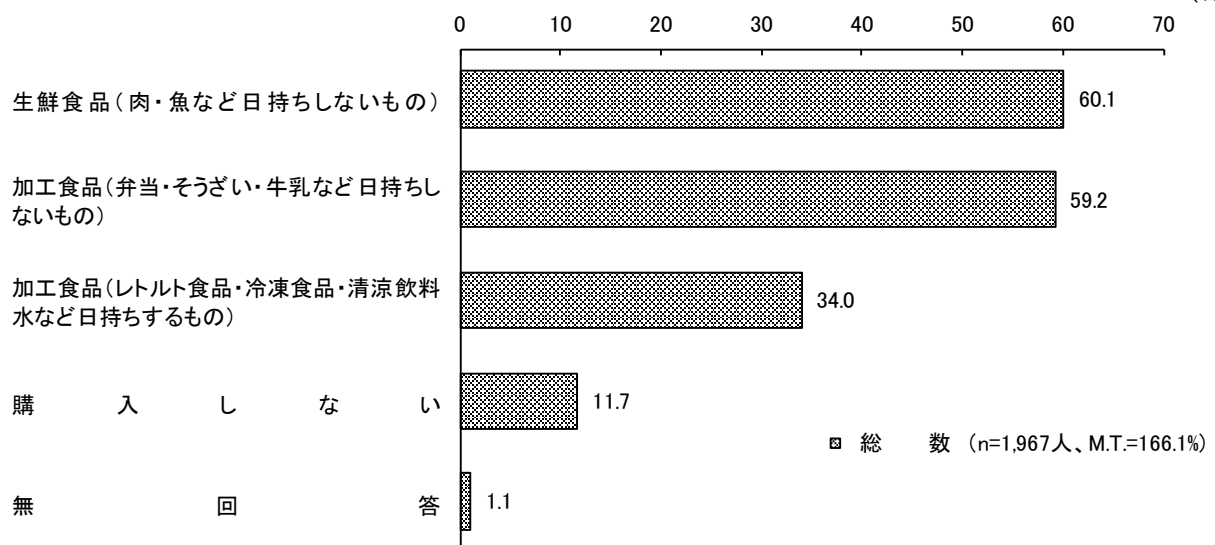
問5 あなたは、日常の買い物で賞味期限や消費期限が近く値引きされた場合に、どのような食品を購入していますか。(〇はいくつでも)

令和2年9月

- ・生鮮食品(肉・魚など日持ちしないもの) 60.1%
- ・加工食品(弁当・そうざい・牛乳など日持ちしないもの) 59.2%
- ・加工食品(レトルト食品・冷凍食品・清涼飲料水など日持ちするもの) 34.0%
- ・購入しない 11.7%

(複数回答)

(%)



ア 賞味期限や消費期限が近い食品を購入しない理由

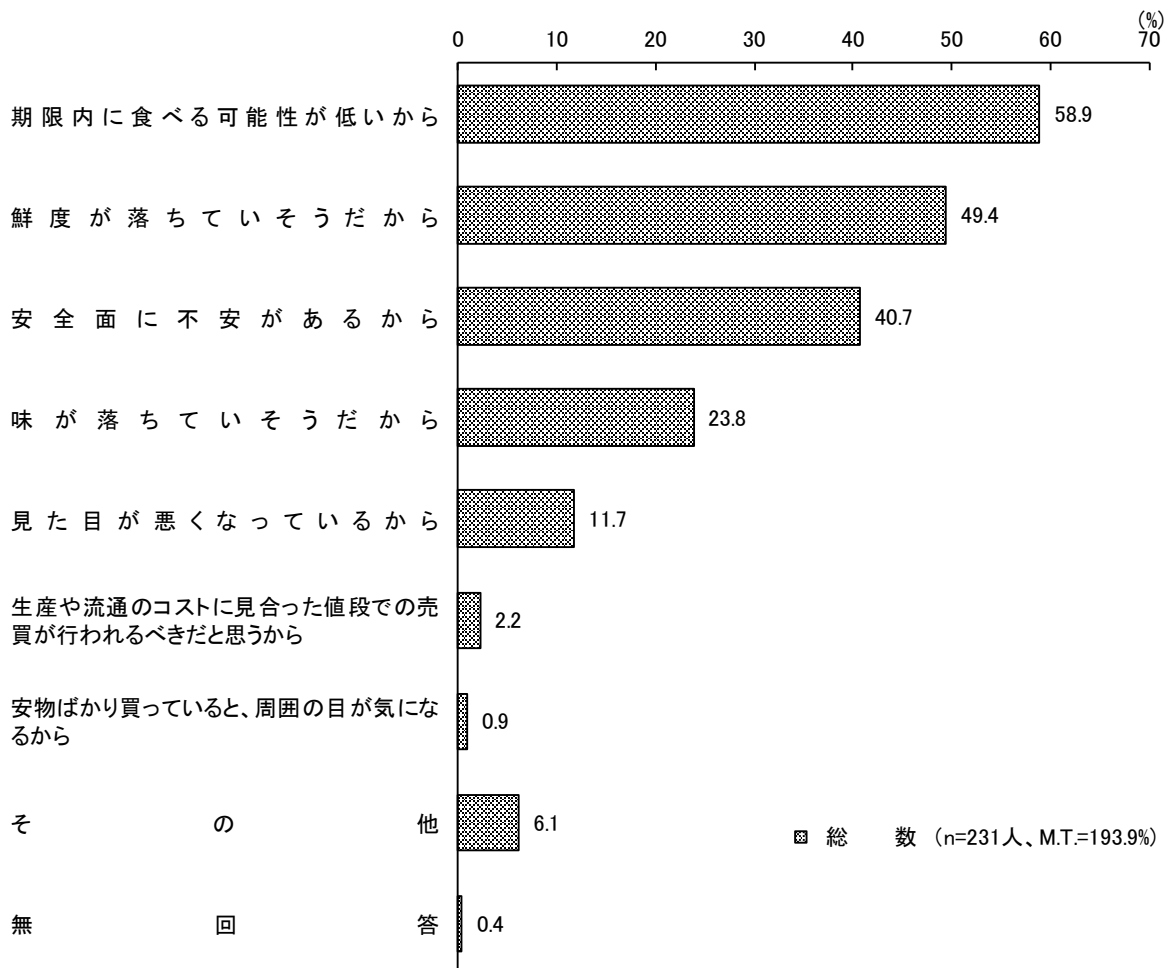
(問5で「購入しない」と答えた方(231人)に)

問6 賞味期限や消費期限が近く値引きされた食品を購入しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和2年9月

- ・期限内に食べる可能性が低いから 58.9%
- ・鮮度が落ちていそうだから 49.4%
- ・安全面に不安があるから 40.7%
- ・味が落ちていそうだから 23.8%

(賞味期限や消費期限が近く値引きされた食品を「購入しない」と答えた者に、複数回答)



(5) 小売店における欠品に対する意識

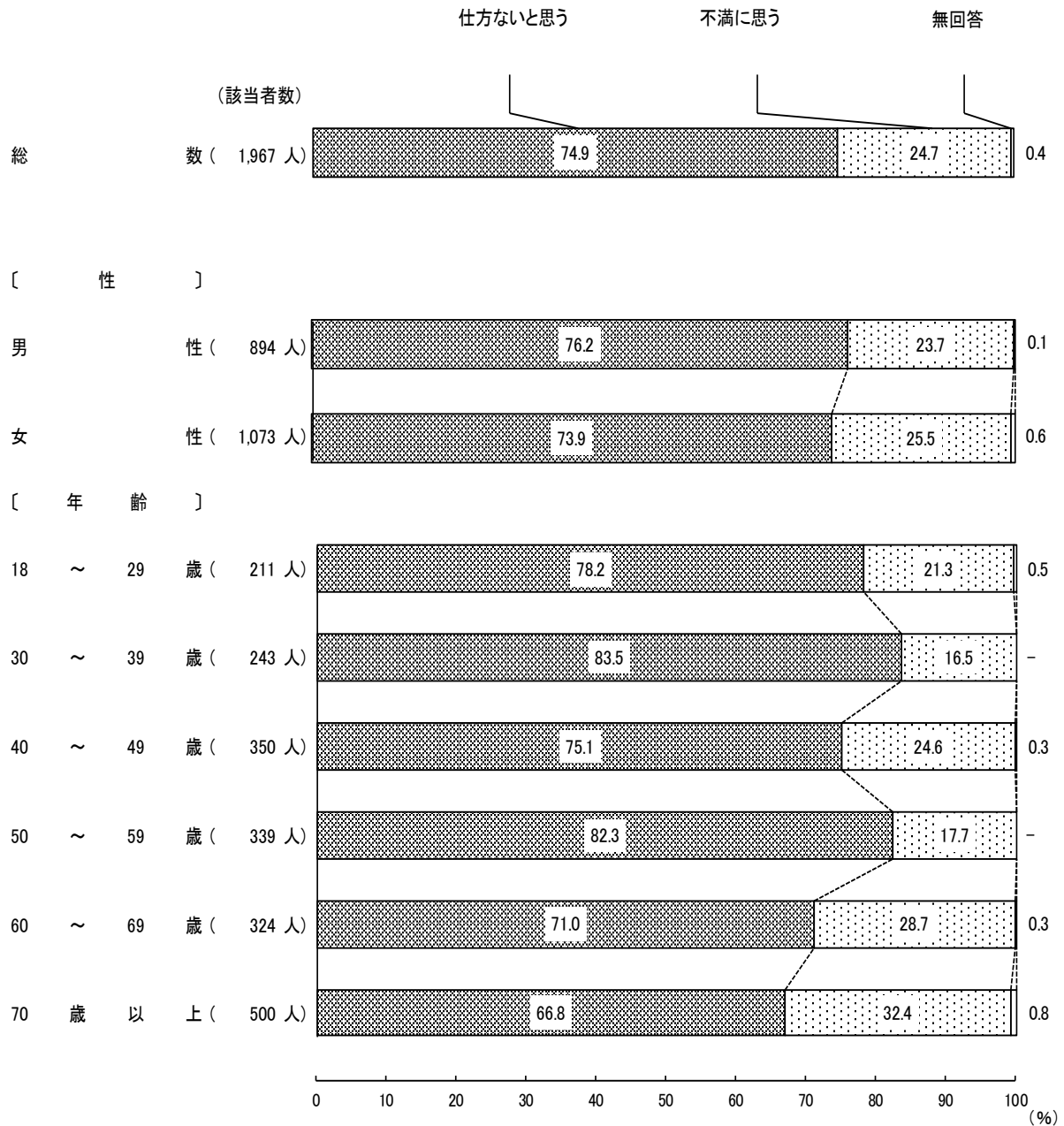
問7 あなたは、日常の買い物をしている小売店において、普段購入している食品に欠品が生じていた場合に、どのように思いますか。(○は1つ)

令和2年9月

- ・仕方ないと思う
- ・不満に思う

74.9%

24.7%



ア 食品ロス削減に取り組む小売店における欠品に対する意識

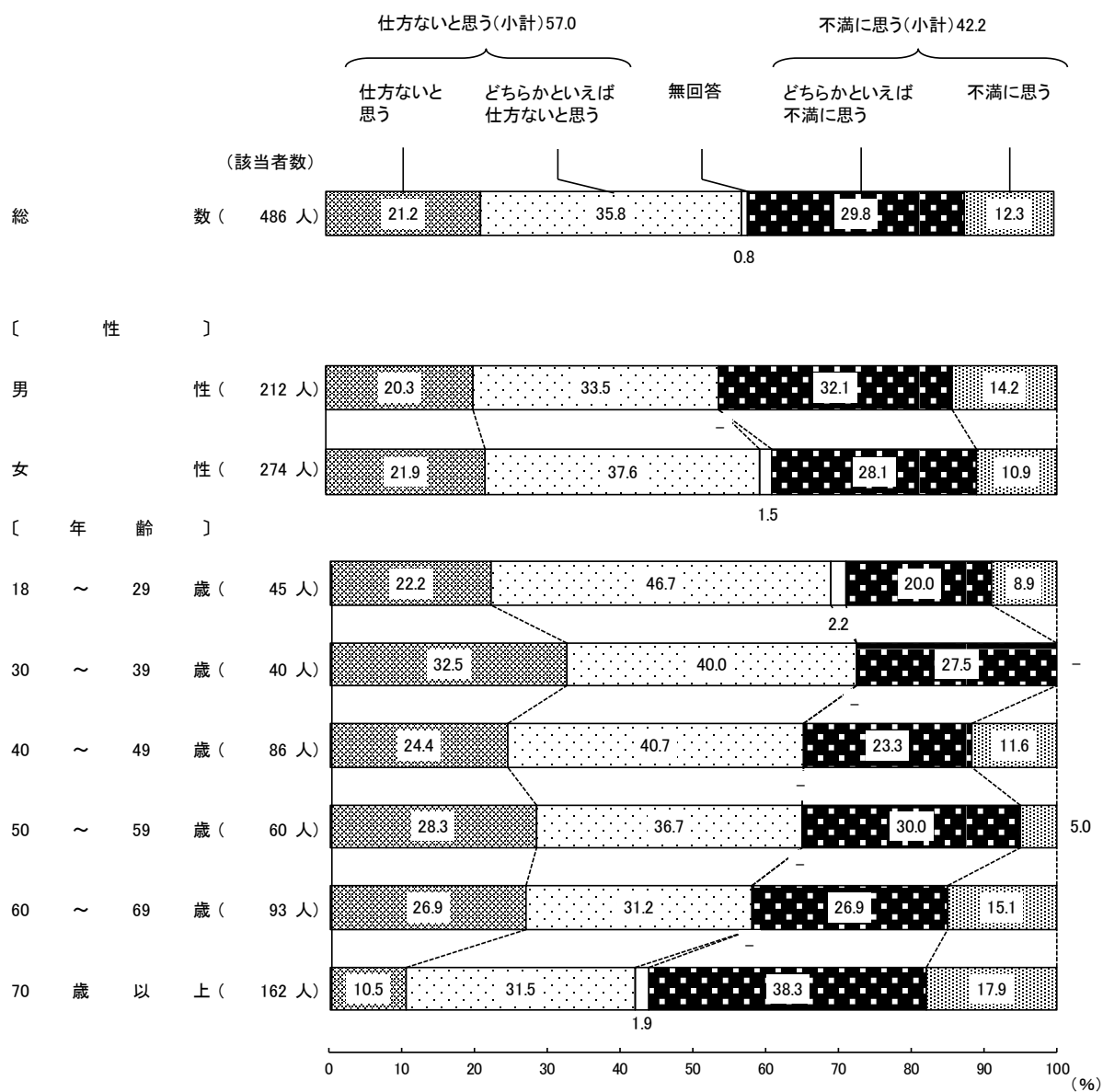
(問7で「不満に思う」と答えた方(486人)に)

問8 食品ロスにならないよう在庫を抱えないために食品に欠品が生じていた場合に、どのように思いますか。(〇は1つ)

令和2年9月

仕方ないと思う(小計)	57.0%
・仕方ないと思う	21.2%
・どちらかといえば仕方ないと思う	35.8%
不満に思う(小計)	42.2%
・どちらかといえば不満に思う	29.8%
・不満に思う	12.3%

(小売店における欠品に「不満に思う」と答えた者に)

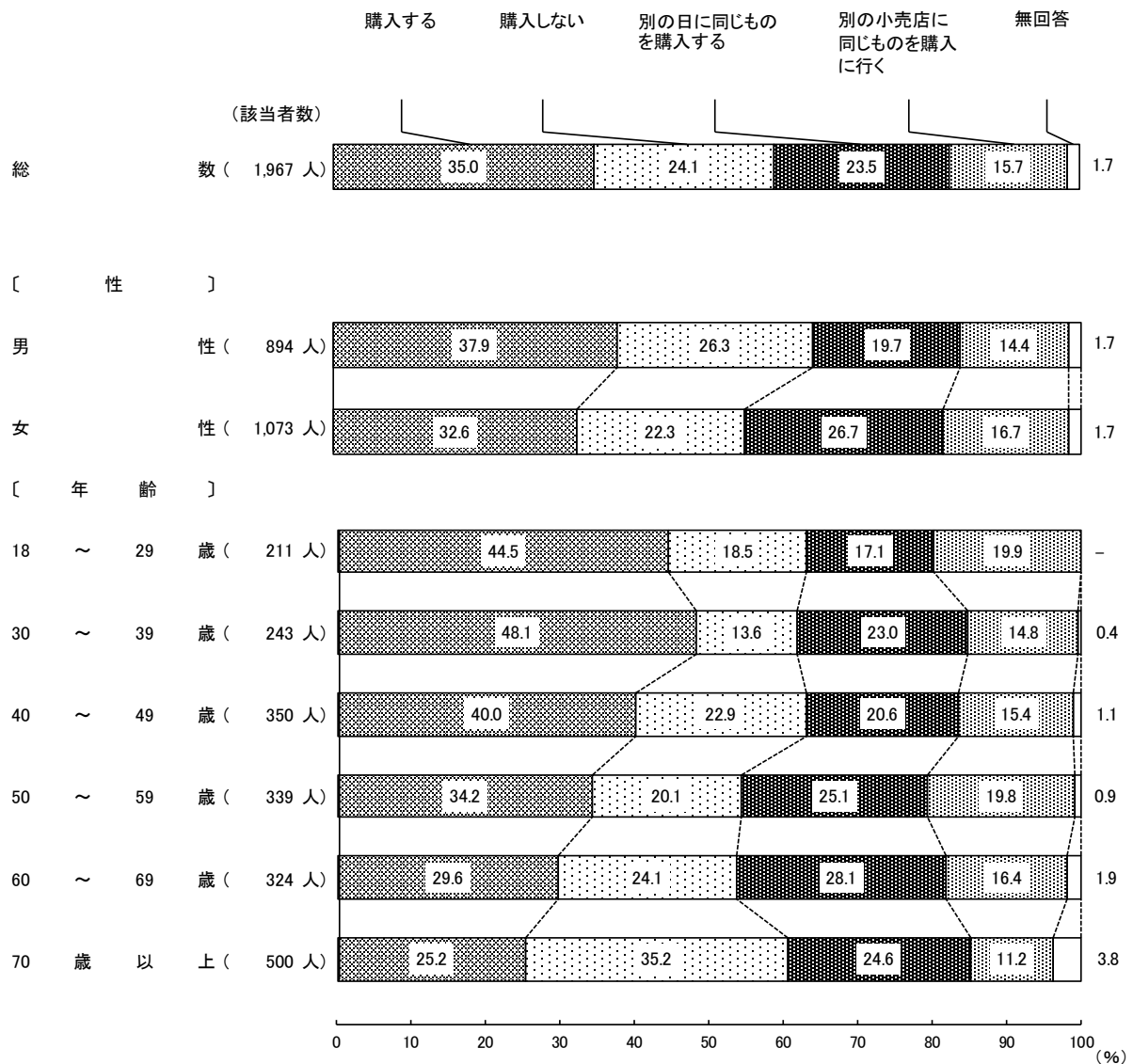


(6) 欠品と類似の食品の購入の有無

問9 あなたは、日常の買い物をしている小売店において、購入したい食品に欠品があった場合に、類似の食品を購入しますか。(○は1つ)

令和2年9月

- ・購入する 35.0%
- ・購入しない 24.1%
- ・別の日に同じものを購入する 23.5%
- ・別の小売店に同じものを購入に行く 15.7%

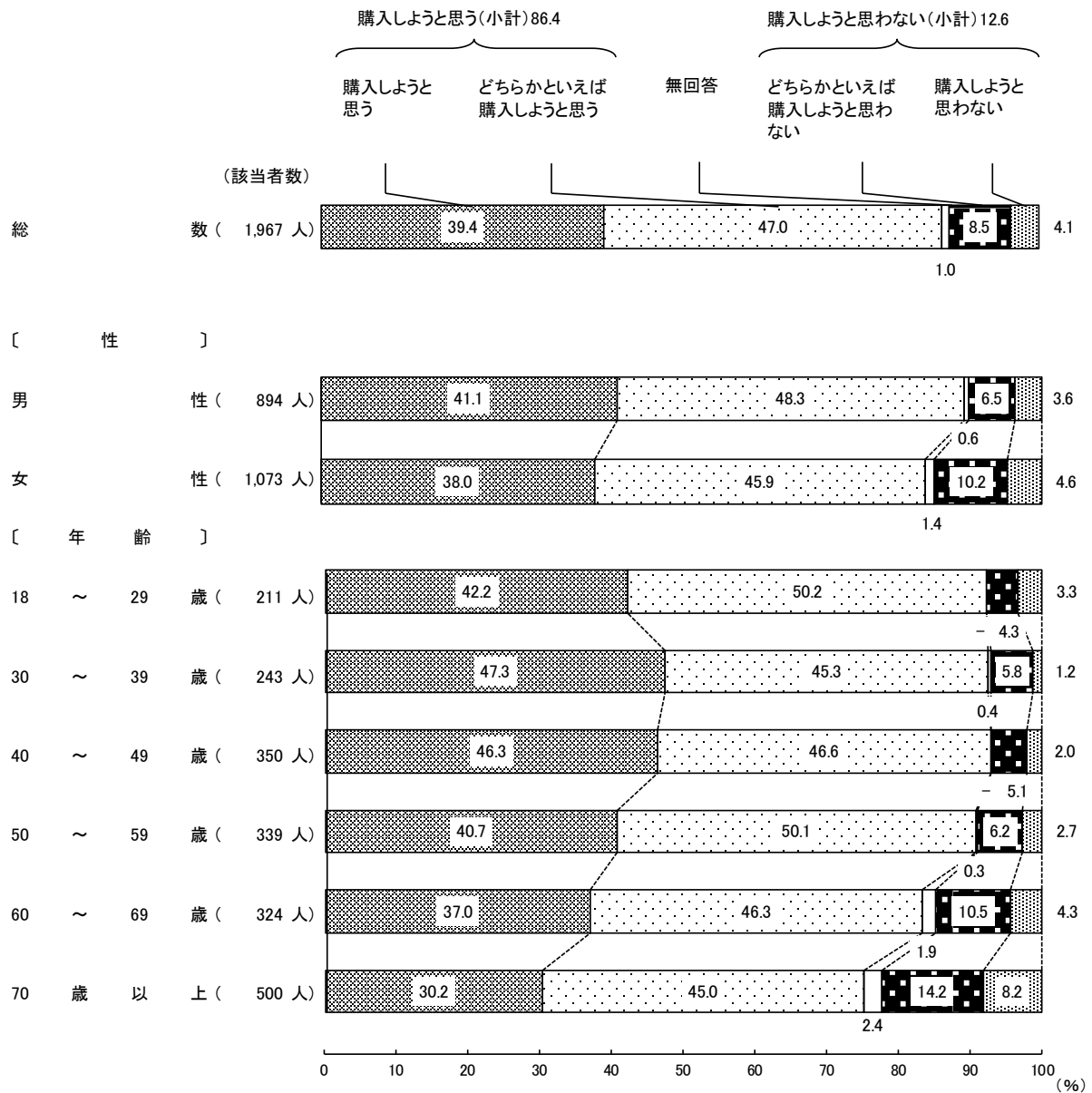


(7) 食品ロス削減に取り組む小売店における購入に対する意識

問 10 あなたは、食品ロス削減に取り組む小売店が扱う食品を購入しようと思いますか。(〇は1つ)

令和2年9月

購入しようと思う(小計)	86.4%
・購入しようと思う	39.4%
・どちらかといえば購入しようと思う	47.0%
購入しようと思わない(小計)	12.6%
・どちらかでいえば購入しようと思わない	8.5%
・購入しようと思わない	4.1%

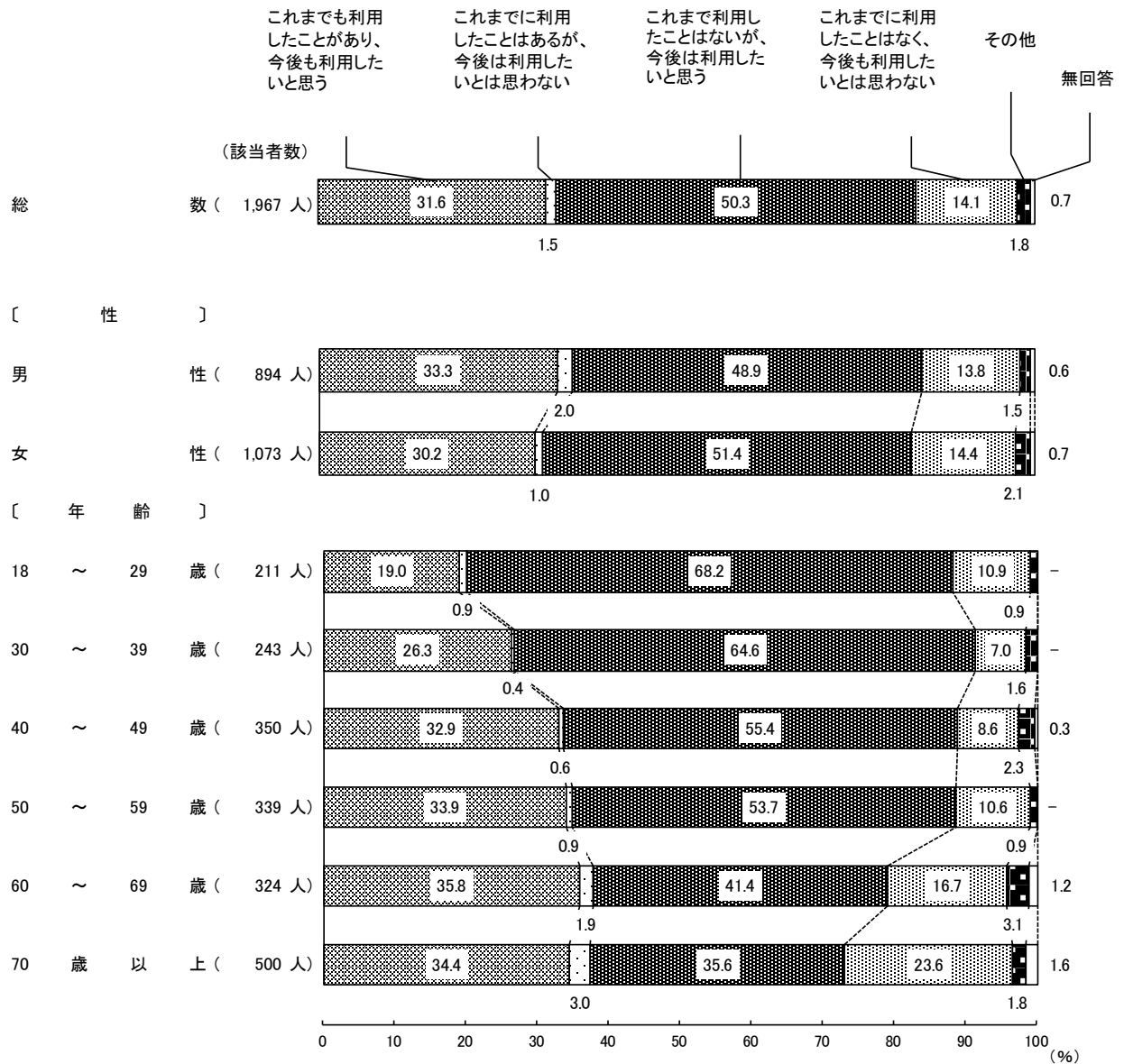


(8) フードシェアリングの利用に対する意識

問 11 あなたは、食品ロス削減のために小売店で発生した見切り品や飲食店の予約のキャンセルなどで余った食材を、本来の価格より割安に販売するフードシェアリングサービスを今後利用したいと思いますか。(〇は1つ)

令和2年9月

- ・ これまでも利用したことがあり、今後も利用したいと思う 31.6%
- ・ これまでに利用したことはあるが、今後は利用したいとは思わない 1.5%
- ・ これまで利用したことはないが、今後は利用したいと思う 50.3%
- ・ これまでに利用したことはなく、今後も利用したいとは思わない 14.1%



2 食育について

(1) 自然の恩恵や食の生産活動への感謝を感じることの有無

問 12 あなたは、普段口にする食材や食事から、自然の恩恵や農業・漁業・畜産業の生産現場の食に関わる人々の様々な活動を思い浮かべ、感謝の念を感じることはありますか。(〇は1つ)

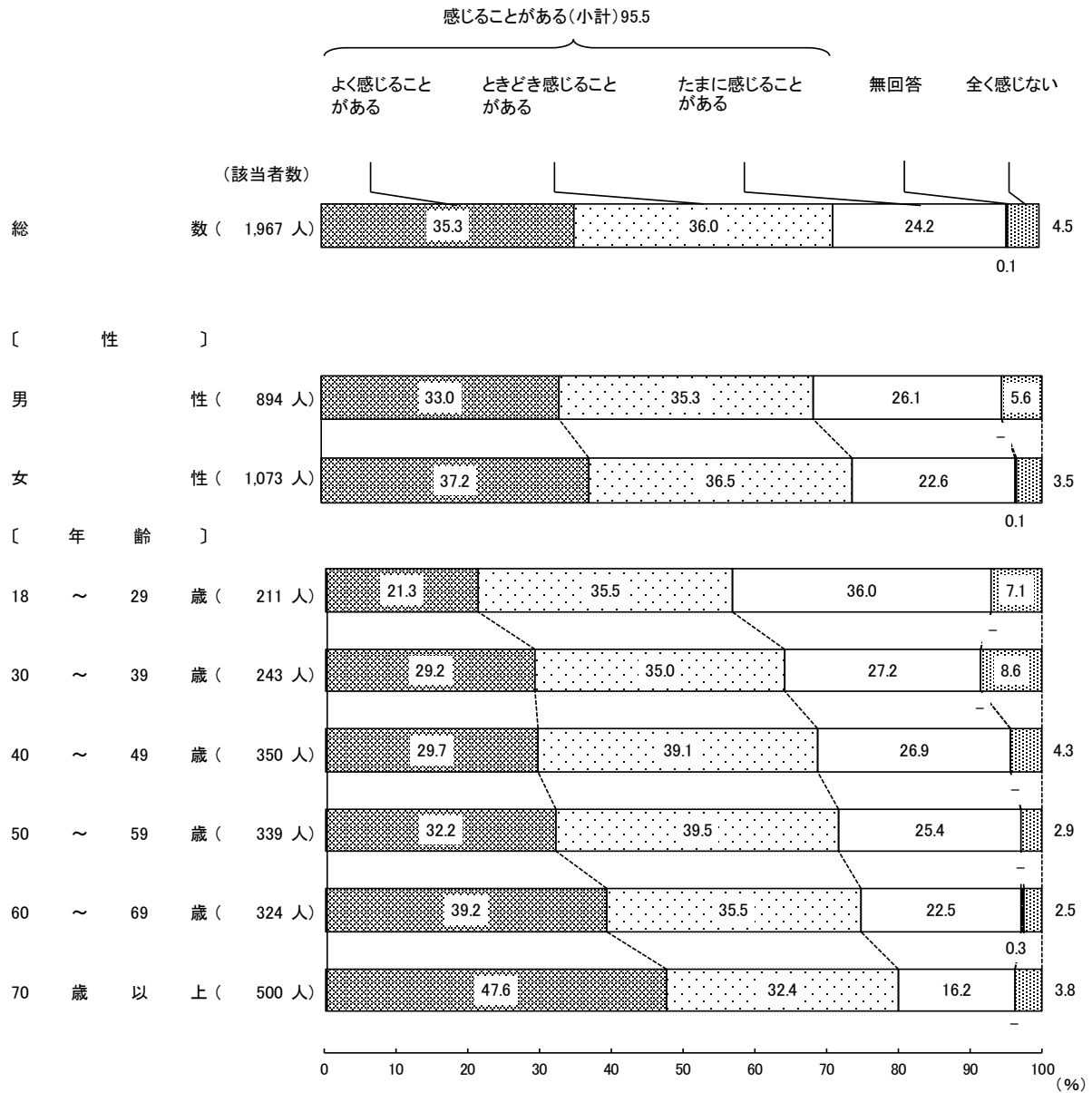
令和2年9月

感じることもある(小計)

95.5%

- ・よく感じることもある 35.3%
- ・ときどき感じることもある 36.0%
- ・たまに感じることもある 24.2%

- ・全く感じない 4.5%



ア 自然の恩恵や食の生産活動への感謝を感じる時

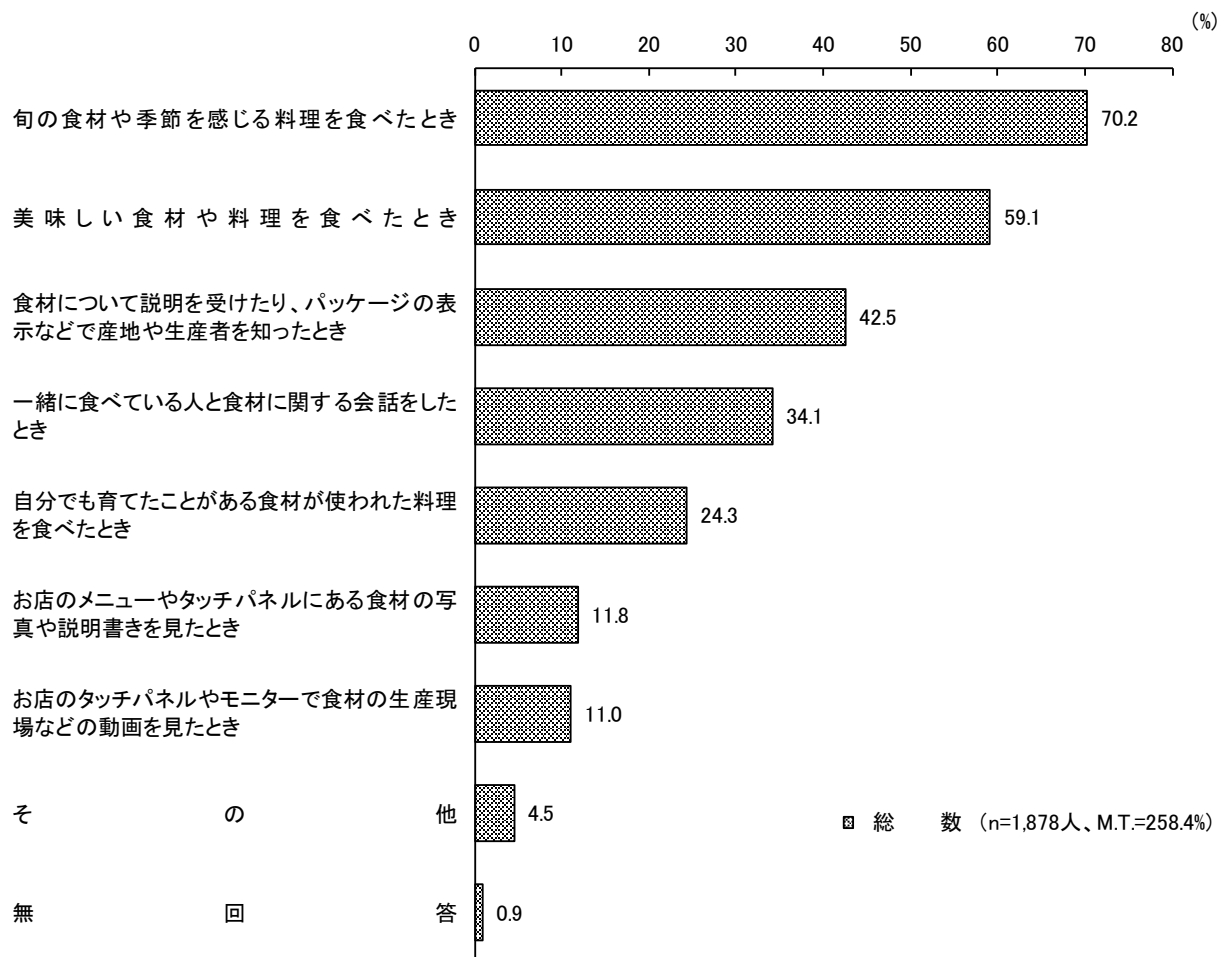
(問 12 で「よく感じることもある」、「ときどき感じることもある」、「たまに感じることもある」と答えた方 (1,878 人) に)

問 13 自然の恩恵や農業・漁業・畜産業の生産現場の食に関わる人々の様々な活動に感謝の念を感じるのは、どのようなときですか。(〇はいくつでも)

(上位 4 項目)
令和 2 年 9 月

- ・旬の食材や季節を感じる料理を食べたとき 70.2%
- ・美味しい食材や料理を食べたとき 59.1%
- ・食材について説明を受けたり、パッケージの表示などで産地や生産者を知ったとき 42.5%
- ・一緒に食べている人と食材に関する会話をしたとき 34.1%

〔自然の恩恵や食の生産活動への感謝を感じることに「よく感じることもある」、「ときどき感じることもある」、「たまに感じることもある」と答えた者に、複数回答〕

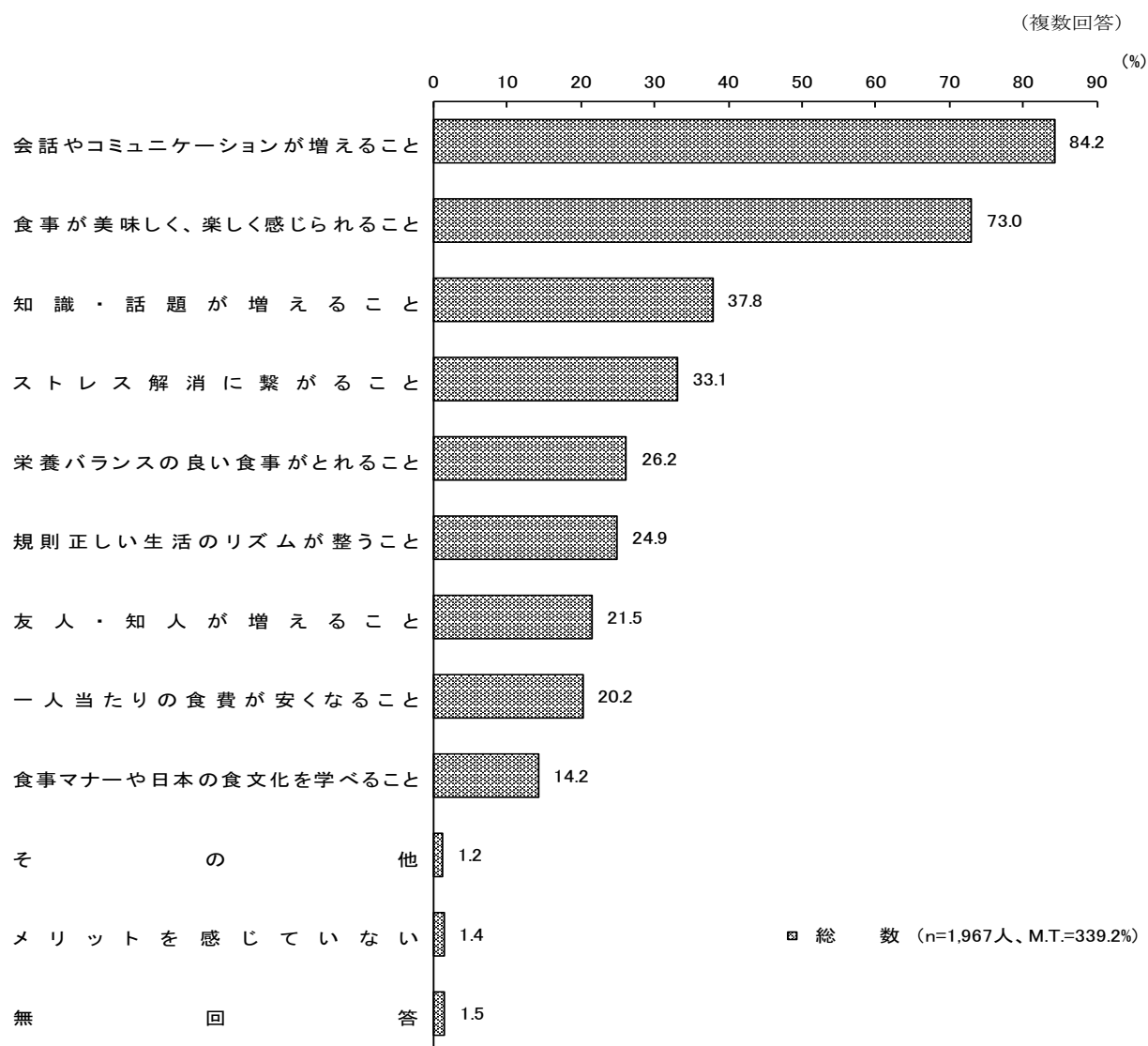


(2) 共食のメリット

問 14 共食とは、自宅、外食を問わず、家族や友人、職場の人や地域の人など、誰かと一緒に食事をする事です。一方、孤食とは、一人で食事をする事です。あなたは、共食について、孤食と比べてどのような点をメリットとして感じていますか。(〇はいくつでも)

(上位 4 項目)
令和 2 年 9 月

- ・ 会話やコミュニケーションが増えること 84.2%
- ・ 食事が美味しく、楽しく感じられること 73.0%
- ・ 知識・話題が増えること 37.8%
- ・ ストレス解消に繋がること 33.1%



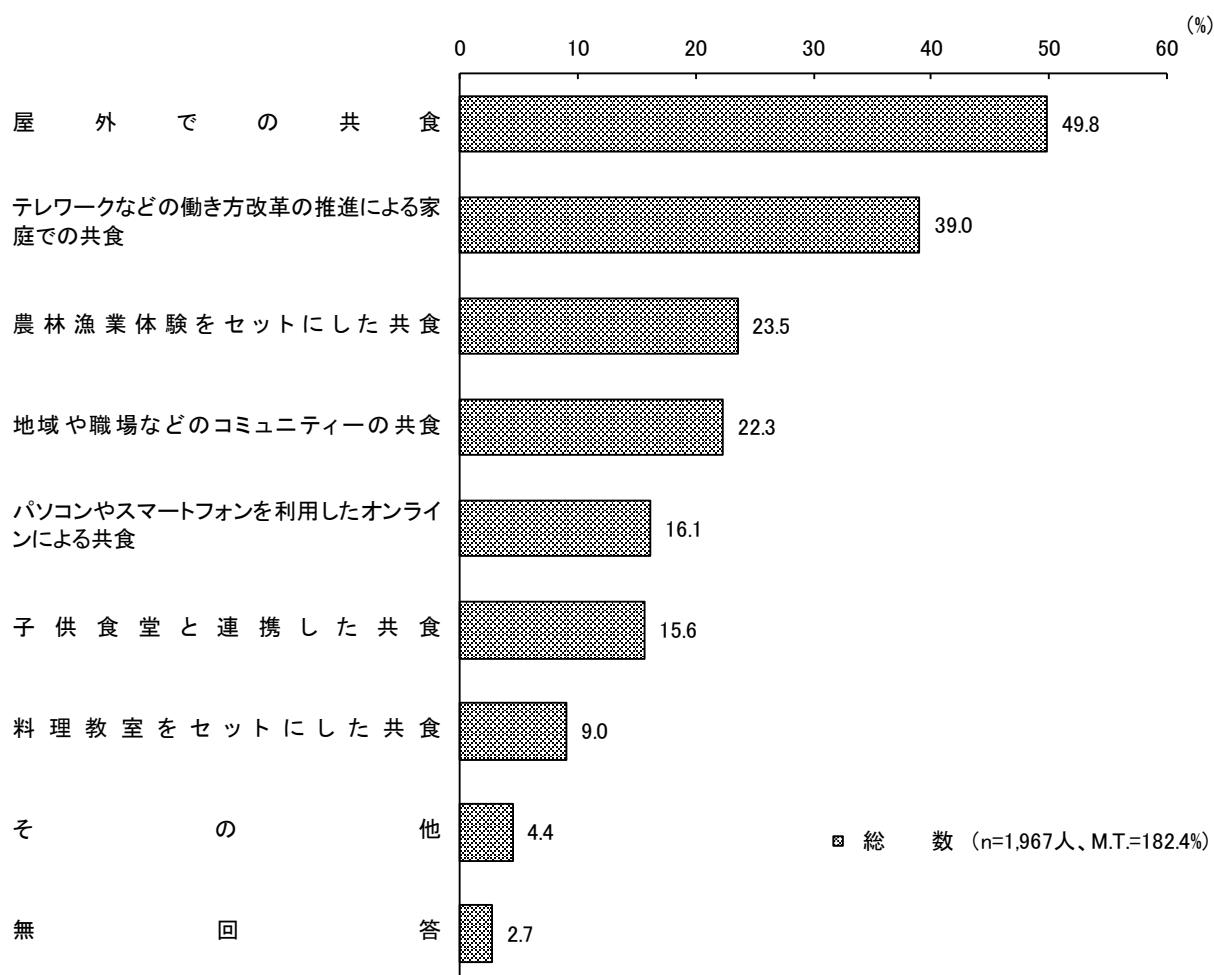
(3) 国が推進すべき共食の内容

問 15 あなたは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための「新しい生活様式」の実践をした上で、国はどのような共食の推進に力を入れていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和2年9月

- ・屋外での共食 49.8%
- ・テレワークなどの働き方改革の推進による家庭での共食 39.0%
- ・農林漁業体験をセットにした共食 23.5%
- ・地域や職場などのコミュニティーの共食 22.3%

(複数回答)

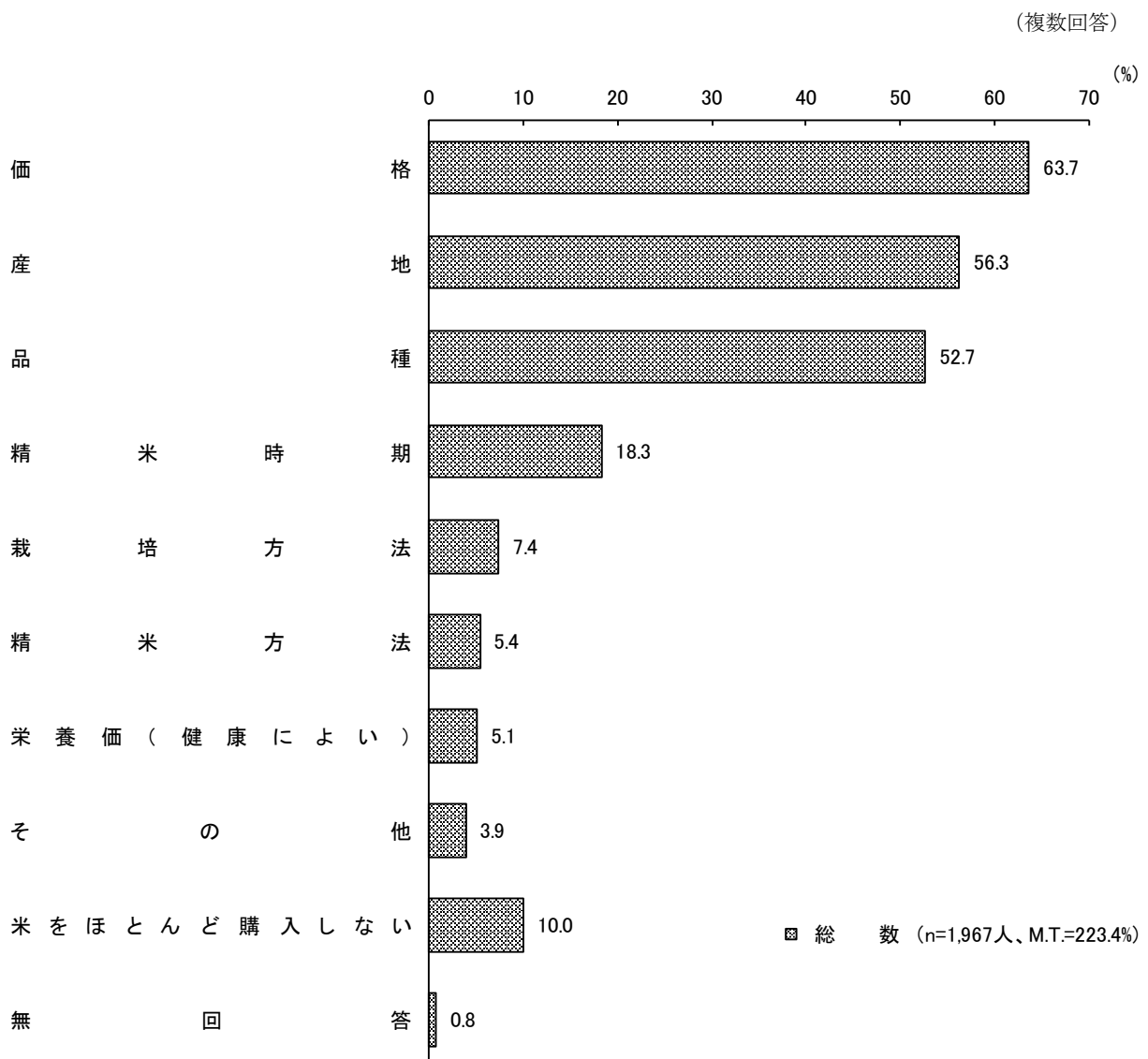


3 米の消費について

(1) 米を購入するときに重視する要素

問 16 あなたは、米を購入するときに、どのような要素を重視しますか。(〇はいくつでも)

	(上位3項目) 令和2年9月
・価格	63.7%
・産地	56.3%
・品種	52.7%
・米をほとんど購入しない	10.0%

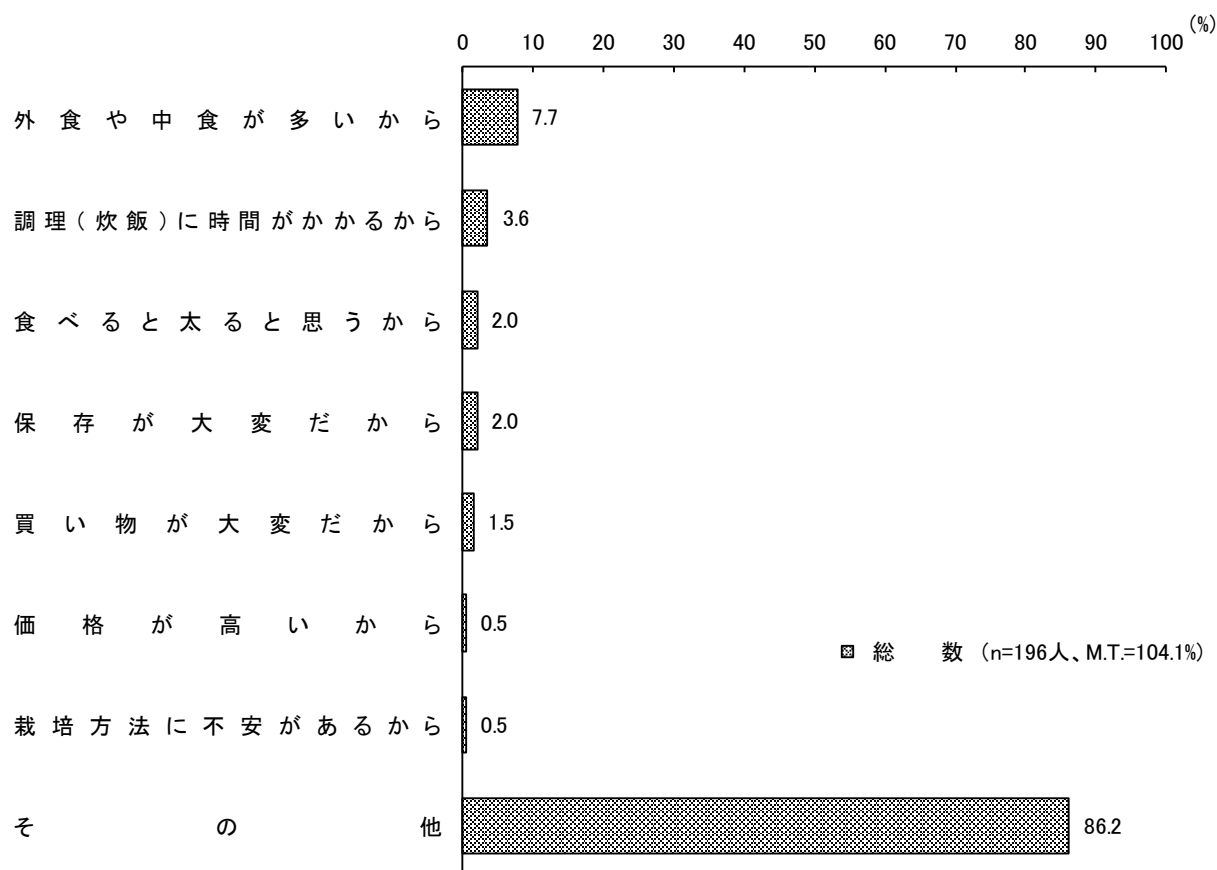


ア 米を購入しない理由

(問 16 で「米をほとんど購入しない」と答えた方 (196 人) に)
 問 17 米を購入しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

	令和 2 年 9 月
・ 外食や中食が多いから	7.7%
・ 調理 (炊飯) に時間がかかるから	3.6%
・ 食べると太ると思うから	2.0%
・ 保存が大変だから	2.0%
・ 買い物が大変だから	1.5%
・ 価格が高いから	0.5%
・ 栽培方法に不安があるから	0.5%
・ その他 (内容は、「米を作っている」、「米をもらっている」など)	86.2%

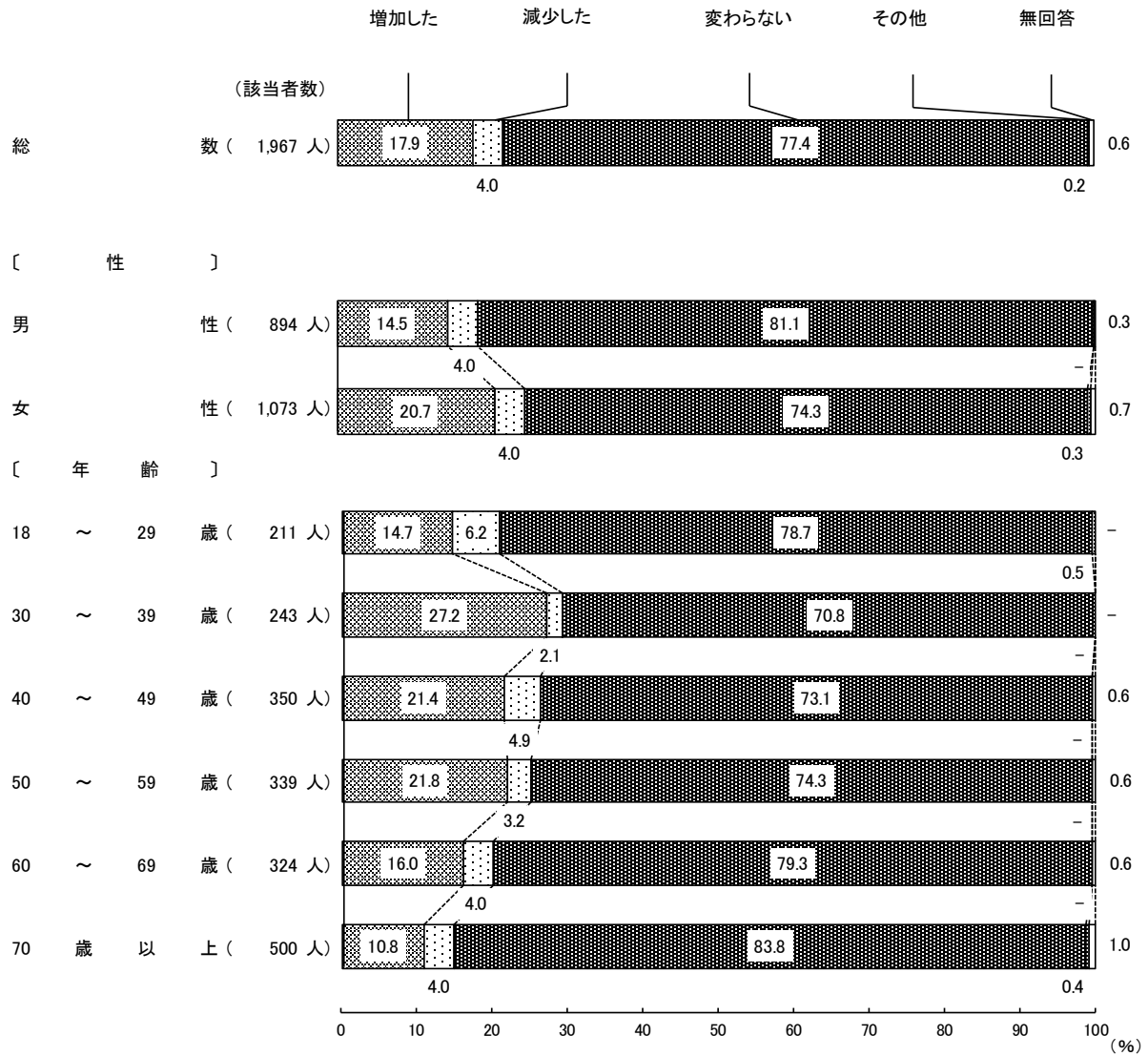
(米を購入するときに重視する要素に「米をほとんど購入しない」と答えた者に、複数回答)



(2) 新型コロナウイルス感染症発生前後の米の消費の変化

問 18 新型コロナウイルス感染症発生前と比べて、現在のあなたの米の消費はどのように変化しましたか。(〇は1つ)

	令和2年9月
・増加した	17.9%
・減少した	4.0%
・変わらない	77.4%



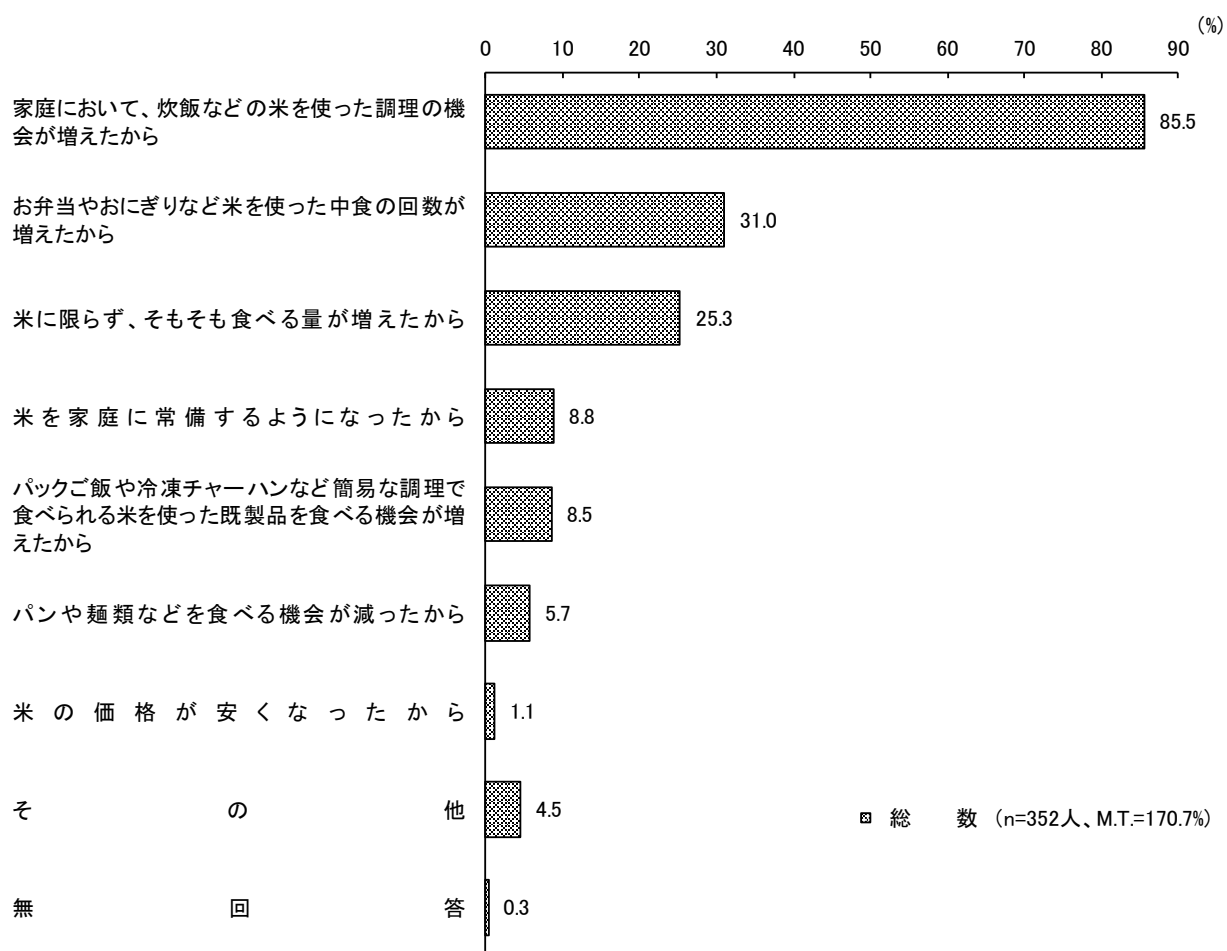
ア 米の消費が増加した理由

(問 18 で「増加した」と答えた方 (352 人) に)
 問 19 米の消費が増加した理由は何ですか。(〇はいくつでも)

(上位 3 項目)
 令和 2 年 9 月

- ・家庭において、炊飯などの米を使った調理の機会が増えたから 85.5%
- ・お弁当やおにぎりなど米を使った中食の回数が増えたから 31.0%
- ・米に限らず、そもそも食べる量が増えたから 25.3%

〔新型コロナウイルス感染症発生前後の米の消費の変化に「増加した」と答えた者に、複数回答〕



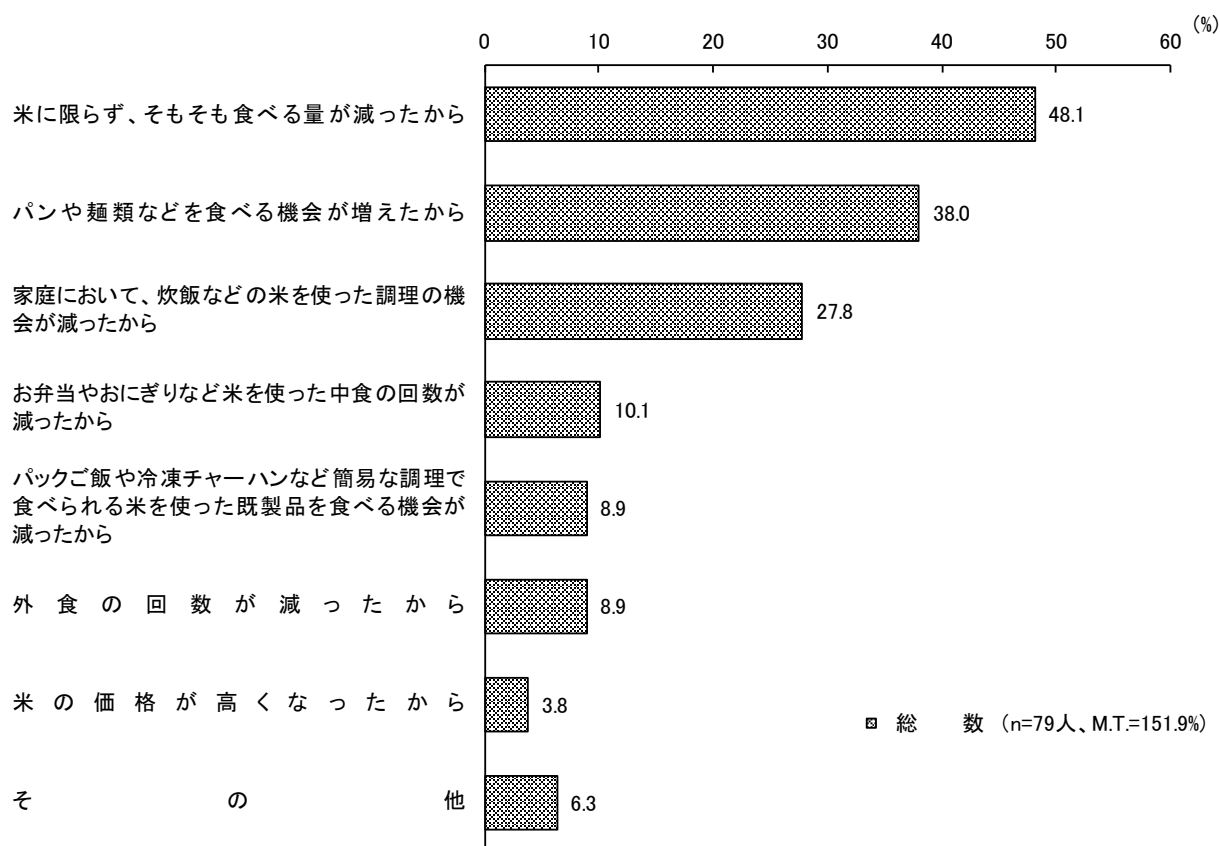
イ 米の消費が減少した理由

(問 18 で「減少した」と答えた方 (79 人) に)
 問 20 米の消費が減少した理由は何ですか。(〇はいくつでも)

(上位 3 項目)
 令和 2 年 9 月

- ・米に限らず、そもそも食べる量が減ったから 48.1%
- ・パンや麺類などを食べる機会が増えたから 38.0%
- ・家庭において、炊飯などの米を使った調理の機会が減ったから 27.8%

〔新型コロナウイルス感染症発生前後の米の消費の変化に「減少した」と答えた者に、複数回答〕



(注) 該当者数が少数であるため、本図の数値の取扱いには注意を要する。